

今回の「病院の実力」は、痔の治療を担う肛門科を特集する。読売新聞は今年1〜2月、内痔核治療法研究会加盟施設のうち、痔核（いぼ痔）のALTA（内痔核硬化療法）を実施している施設830か所に対し、2009年の治療実績などをアンケートした。

痔の手術 機能温存を優先して

痔の6割以上を占めるのは痔核で、手術で切除する結果、切除術が代表的な手術法だ。診療所では日帰りで行うところもある。しかし、手術後に出血などが起こる可能性があり、病院では数日の入院を勧めることが多い。

ALTAは、痔核に炎症を起させる注射をし、縮小させる新しい治療だ。痛みの神経がない直腸の末端部分にできる内痔核を行う。痔核を切除しないため日帰りでいいや、すが、外痔核には向かず、再発率が高いなどの欠点もある。一方、肛門の奥には細菌が感染し、ウミがたまるのが痔ろうだ。進行すると肛門の近くに別の穴があくこともある。

野垣病院（名古屋市瑞穂区）医局長
桐山幸三さん 54

痔の大半を占める痔核（いぼ痔）は、排便習慣の悪い人がなりやすい病気です。ただし、症状のない方にとっては、どうしても治療しなければならぬものはありません。生活に不自由さを感じる場合には、腫れをとり、便を出やすくし、腸の動きをよくする薬で治療をして、排便コントロールで様子をみます。肛門外へのいぼ痔の脱出や、出血が続く、痛みが強い場合は手術が必要となります。

規則的な排便が大切

女性に多いのが切れ痔です。痛みが強く、排便が怖くなってしまふケースがあります。大半の患者は排便コントロールと炎症を抑える薬による治療を受けると、2〜3週間で落ち着きますが、1〜2割の患者は改善しない、切れた部分が慢性化します。肛門が狭くなったり、ポリプやいぼができたりする場合には、手術が必要となります。

20〜40歳代の男性に多い痔ろうは、完全に治すには約2か月かかります。肛門の周りにできるおできを治しても、肛門奥に原因となるばい菌が入ったまま放置しておく、すぐに再発する可能性があり、きちんと治すことが大事でしょう。

病院を選ぶ際は、肛門科専門医の有無、手術件数が目安となります。普通に生活していてもなる可能性がある病気ですが、規則的な排便習慣が病気の関係で重要となります。便秘気味の方は、原因となるストレスの低減や、規則正しい食事などを心掛けてください。

病院の実力

〜愛知編29

治療の基本は手術で、程度によって様々な方法がある。手術で肛門の周囲の括約筋が傷つくと、便漏れなどの恐れがある。医師とよく話し合い、可能な限り機能を温存できる治療法を選択したい。

表には、肛門科の医師数と、そのうち女性医師の数も示した。気恥ずかしさから受診が遅れがちな女性患者に対応するため、東京や大阪の施設を中心に、女性医師が増えている。なお、独立した肛門科がないため0人と回答した施設があるほか、肛門科以外で手術する医師の数も含めて回答した施設もある。

